

出張報告

報告日 2025年 3月27日

会 派 名	自治研究会
報告者氏名	山崎 智仁
種 別	☒ 調査研究（ ☒ 行政視察） ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	観光戦略全般について
日 時	令和7年1月29日（水） 10:00 ～ 11:30
場 所 （会場）	伊勢市役所
調査項目等	・伊勢市観光振興基本計画の概要 ・観光における広域連携について
概 要	○社団法人 伊勢志摩観光コンベンション機構の概要 伊勢志摩地区（伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、玉城町、度会町）、地元民間企業等が中心となって平成18年に設立された。現在224会員 主な事業内容として「観光情報の発信事業」「観光客等誘致促進及び受入れ体制の整備に関する事業」「フィルムコミッション事業」「観光産業・観光文化の振興と人材の育成に関する事業」などがある。 ○伊勢市の観光政策について 人口118,960人、 面積208.35km² 主な観光資源は、伊勢神宮（内宮・外宮）及び二見エリア朝熊エリアがある。 観光動向は式年遷宮の影響が大きい。 観光客も式年遷宮に合わせて推移し、リピータが多い傾向である。 これらの特徴を捉えたまちづくりが行われている。 伊勢市の取り組みとしては、住む人も満足できる地域プライドの醸成があげられる。 歴史のある伊勢らしい景観を重視したまちづくりに取り組んでいる。
所 感 等	伊勢市の観光資源において、伊勢神宮内宮・外宮の果たす役割が非常に大きいことを知る機会となった。式年遷宮に合わせた開発に関して、市民が持つ気概を感じることができた。また、伊勢神宮とともに海岸の景勝地域である二見エリアも力を入れている現状であることがわかった。 伊勢志摩地区において伊勢志摩観光コンベンション機構がもたらすメリットは大きく、関係6市町と観光関連企業を広く丁寧に繋ぐ姿勢を見ることができた。高付加価値インバウンドを目指すことで国内でも憧れの地域を目指す方針であり、官民一体の観光振興事業を展開すること、平成18年から続いている観光の広域連携の活動が登録DMOや観光庁のモデル観光地選定につながっている現状を知ることができた。
種 別	☒ 調査研究（ ☒ 行政視察） ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議



用 務	稲沢市シティプロモーションについて
日 時	令和7年1月30日（木） 10：00 ～ 11：30
場 所 （会場）	稲沢市役所
調査項目等	・稲沢市のアピール戦略について ・シティプロモーション特設サイトの運営について
概 要	○稲沢市シティプロモーションの概要 名古屋市へのアクセスの良さを活用した稲沢市シティプロモーション戦略の策定や令和5年からはシティプロモーション課を設立している。 稲沢市の魅力は名古屋駅から電車で約10分でありながら自然に触れられる事を強みとして、若い世代をメインターゲットとして移住定住人口の増加による持続的な発展を目指している。 プロモーションサイトを開設し、稲沢市にゆかりのある方から魅力を伝えることや、飲食店を漫画で紹介するなどの取り組みを行っている。 230万人都市「名古屋」をターゲットとし、名古屋駅デジタルサイネージを活用したPRや名古屋所属バレーボールチームとのタイアップを行っている。 移住定住リーフレットを作成し、子育て支援の取組やスポットなどを紹介している。 稲沢市の魅力を伝えるために、YouTubeにPR動画の配信や、「ヤバいなざわイラストコンテスト」を実施している。
所 感 等	名古屋からのアクセスに恵まれた稲沢市では、古くから植木や苗木の生産が盛んであり、市街化調整区域が多く、宅地への制限がある現状で、学生などの若い世代や子育て世代に向けたプロモーションに力を入れている事を知る機会となった。 近年設立されたシティプロモーション課の取り組みは視察の質疑の中でも活気や勢いを感じることができた。プロモーションのキーワードである「ヤバいなざわ」は多少の賛否があったとのことだが、下地となるITを活用したマーケティングや子育て支援策の取り組み、地道なコンテンツ作りに取り組んでおり、それらをどんな言葉で人を惹きつけるかの工夫の産物であると感じた。 データを使った調査の上での施策の充実が重要である点や、それらを伝えたい相手に対してどう伝えるのが有効であるかを模索している点などを確認することができた。

